助さん、格さん。お願いだから服を着て！

トオノキョウジ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

助さん、格さん。お願いだから服を着て！

【Nコード】

N3908Y

【作者名】

トオノキョウジ

【あらすじ】

2011・11・10ブログ記事より

全裸の股間にティファール一丁。
引き締まった胸板も露わなまま、助三郎と格之進は、ぴたりと動きを止めた。

「ご、御隠居。そんなご無体な……!!」

信じ難い、といった眼差しで、光圀公を見つめる二人。

今日も今日とて、たまたま見かけた悪代官を、これ幸いと徹底的に懲らしめていた所であった。

「助さん、格さん！ 確かにワシはお前達に言った。お忍びの道中とて、年中同じ服を洗いもせず、身に付けているのは如何なものかと！」

光圀公は、杖を握る手をわなわなと怒りに震わせた。

あの日、JR池袋駅。

雑司が谷の大鳥神社までお参りにと、手を上げて拾ったタクシーの運転手から全力で告げられた、まさかの乗車拒否。

「お兄さん達、臭いよ！ 野良犬で作った雑巾みたいな臭いするよ！」

確かに御一行は、お銀扮する熟年女優『由美かおる』を除き、道中風呂や洗濯というものについぞ縁が無かった。

愕然とする光圀公ら御一行。

中でも特にひどく心に傷を負ったのは、ご一行の中でも抜きん出た色男、助三郎だった。

このままでは、大好きな光圀公に嫌われてしまう。

悩み、思い詰め、無我夢中で走り迷い込んだとある繁華街。

春日通り辺りだろうか。息と着物を乱し、己の居場所を確かめる為にくるりと見回す助三郎。

燕尾服の男性が待つ異国茶屋や、黄色い声を上げながら通り行く、若い女子達。

ふと見つけたのは、何やら草子屋らしき構えの店。

浮世草子にしてはやけに薄く、また色鮮やかなそれが、束になって平積みされているのを、助三郎は見つけたのだ。

不思議と惹かれる何かを感じ、手近な一冊を開く助三郎。

そこに広がっていたのは、細面の凜々しい青年同士が、肌も露わに破廉恥に、組んず解れつ絡み合う男色春画の数々であった。

……これだ！

助三郎は、全身に奔る凄まじき稲妻を感じた。

天啓とは正にこの事、そう確信していた。

そう、臭う服などこの場に脱ぎ捨ててしまえばよかったのだ。

.....

「特に助さん！　せめて格さんと同じフライパンにせんか！　出ておるー！」

池袋のあの日から、早三年。

頑なに服を着ようとしない助三郎と格之進にあらゆる感情を覚えながら、黙って堪え見守り続けた光圀公。

だがしかし、諸行悉く無常なり。

どんなに丈夫に結った緒も、いずれこうしてブチ切れる運命にあったのだ。

「もう今日という今日は勘弁ならん。そんなの、そんなの……！」

溢れる怒りと突っ込みたい気持ちを、光圀公は幾度も幾度も飲み下し、己の腹に溜め込んだ。

だがそれは、いつの日からか、助三郎への募る思いへと変わっていた。

「そんなの……ワシの好きな助さんじゃない！」

光圀公は、あばらの浮いた胸に秘めたそれを、堪え切れなかった涙と共に、とつとつ零してしまったのだ。

「い、い隠居……」

助三郎も、もらい泣きする様に涙した。

諸国漫遊、長きに渡るその旅路で、培われてきた固い絆。

そして今この二人の間で、ようやく互いの本当の思いを知る事が、叶ったのだ。

「助さん……！」

「い隠居……！」

「少し、懲らしめてやるかのう……歯あ食いしばれ！」

突如杖を投げ捨て、右の拳を固める光圀公。

青い光となり迸る、無限に等しいエネルギー。

大地を砕かんばかりに重く踏み締め、重心と魂を乗せた剛拳が、和みかけた大気を裂いて轟と鳴る。

そして仁王立ちのままの助三郎。

甘んじて受け入れるかのようなその姿は、まるで全てを包容し赦す菩薩の如く。

光圀公の拳は、一寸に足らぬ差で助三郎の頬をかすめる。

そして助三郎が繰り出すクロスカウンターは、渾身の熱いベエゼ。

「ええい、控えおろう！ 控えおろう！」

喜びの男泣きに震える格之進の声が、締めとばかりに決まり文句を詠い上げる。

「ここにおわす方々のカップリングを何と心得る！」

恐れ多くも、狡猾で激しい攻めに定評のある先の副將軍と、

美しくも悩ましい受けを魅せる武闘派青年の、

『水戸光圀公×助三郎』であるぞ！

頭が高い！ 胸が熱い！ 控えおろう！」

格之進までが服を着ていない訳に関しては、特別何を問いたただす事もしない、優しいやさしいご老公なのでありました。

続
ぬ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3908y/>

助さん、格さん。お願いだから服を着て！

2011年11月10日02時13分発行